2021 年 1 月号　　題字　一萬田 尚登 第 5 代日印協会会長

月刊インド

Monthly Journal of the Japan-India Association

公益財団法人 日 印 協 会（日印間の政治・経済・文化・人的交流に貢献して 118 年）

インドラと帝釈天

左：南インドの細密画に描かれたインドラ
（ウィキペディアより）

右：東寺の帝釈天半跏像
（東京国立博物館　東寺展）

目次

1. 森会長より年頭のご挨拶 …… P. 3
2. 異文化理解から多文化共生へ …… P. 4
3. 日本の神々の体系に反映された日印文化の混淆 …… P. 9
4. 「アジアの価値観と民主主義」シンポジュームの開催を回顧して …… P. 13
5. インドニュース（2020 年 12 月） …… P. 15
6. 新刊書紹介 …… P. 20
7. イベント紹介 …… P. 21
8. 掲示板 …… P. 22

目次とページを合わせるために空白ページをいれております。

1. 年頭のご挨拶

New Year's Greeting

公益財団法人日印協会　　代表理事・会長
森　喜朗

明けましておめでとうございます。
昨年は新型コロナが皆様の生活や仕事を制約しましたが、ご無事に年を越されたことと拝察いたします。

日印両国政府間の協力は、「日印特別戦略的グローバル・パートナーシップ」と両国が世界的規模でリードする「自由で開かれたインド太平洋戦略」により順調に進展しています。
しかし、民間レベルの活動は、双方での新型コロナウイルス状況悪化のため、大いに制約を受けました。日印協会では、日常業務はテレワークを活用して遂行しておりますが、インド情勢の実施調査、ビジネス関係の往来、文化行事、人的交流など人の行き来を伴う活動は中止や延期を余儀なくされました。

インドでの感染状況は想像を超えるものがあり、1月1日現在で感染者数は10,286,709人、死亡者数は148,994人にのぼり、米国に次ぐ世界第2の感染状況となっています。昨年、インドは、時に全国的規模でのロックダウン、時に大都市中心の移動や営業の制限など政府も国民も多くの困難を経験し、外国との交流もままなりませんでした。
わが国においても、1月1日現在、感染者数238,999人、死亡者数3,541人となり、懸念されている状況ですが、国民、政府、都道府県、市町村挙げての取り組み、何よりも医療従事者の献身的な努力により、被害状況は諸外国よりはるかに低い状況です。それでもインドを含めた諸外国との交流は、経済、文化学術、人的交流など大いに制限されました。

しかし、最近、インドにおいては感染者数の増加が鈍化傾向を示し、ワクチンの承認もアストラゼネカ社・オックスフォード大学開発のものを含め、今月中の承認・投与が確実になったようです。わが国においても、ファイザー社やモデルナ社などが承認申請済みで早期の特例承認が期待されており、2月下旬には医療従事者から始めて投与開始となる予定です。
新年を迎え、暗い長いトンネルの出口もほのかに見えてきたように感じます。
本年7月から8月にかけて、私も関係する東京オリンピック・パラリンピックが開催されますが、関係者は万全の準備を目指し努力中です。

日印協会は本年で設立118年を迎えました。
心を新たに、失われた数カ月を取り戻しさらに発展させるために、一同努力をしてまいりたいと考えます。引き続き皆様方のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2. 異文化理解から多文化共生へ

Achieving Multicultural Diversity by Understanding Various Cultures

江戸川区議会議員　よぎ（プラニク・ヨゲンドラ）

私、よぎ（本名：プラニク・ヨゲンドラ）は2019年の地方統一選挙で当選し、江戸川区議会議員に就任しました。全国初のアジア出身の議員ということで、BBCなど含め、国内外のテレビ、新聞、雑誌、オンライン・メディアなどで数多く取り上げられました。また、江戸川区のような保守的と言われる地域で6477票獲得による上位当選が話題となりました。これは、たくさんの方々の、多方面に渡る努力の積み重ねの結果だと思っています。

銀行員から政治家へ

みなさんに聞かれます、なぜ銀行管理職を辞め、議員になったのかと。1990年代の後半に国費留学生として二回来日し、2001年から国内のグローバル大手IT企業で働き始め、2010年にみずほ銀行に入行しました。2019年に楽天銀行の企画本部副本部長になりました。銀行員はとても誇り高く好きな仕事でしたが、今まで考えてきたことを実現するために、年齢的にも、時代の流れとしても、やるなら今だと、選挙公示寸前に政治の世界に飛び込んだのです。もちろん、一回目は勝てる訳がないとの思いで。

インドの田舎から海外・日本へ

私は1977年6月3日にムンバイ郊外の田舎で生まれました。工場で働く父親と裁縫をする母親、5歳年上の姉と4歳年下の弟がいる温かい家族で育ちました。食べていくのは苦ではなかったが、一年に洋服は母が縫った二枚、靴は一足、という経済的状況でありました。家の周りは、一面みどりの田んぼが広がり牧場もたくさんあって、毒蛇がよく出る地域でした。実家から数キロのところにインドでもトップレベルと評価される国立小中学高校があり、運良くこの学校で勉強することが出来ました。幼稚園から四つの言葉を学び、小さい頃から数学が好きでした。

1994年に大学（理系）に入学すると共に同大学の日本語学科にも入り、私立校で情報処理を学びました。当時の大学の年間学費は理系5000円、日本語学科600円とIT校は5000円でした。今も大きく変わっていなくて、インドは多くの子どもに教育の機会を提供しているのです。そして、1996年末に日本国外務省が全世界で実施する優秀者奨学金試験で優勝し、世界各国から招待された数十名の一員として初来日となったのです。その後、1999年にもう一度日本に留学し、国際交流基金の埼玉県内にあるセンターで学んだのです。

シングルパパで待機児童を経験

その後 2001 年から日本で働き始めるのですが、日本で知り合った中国人女性と同年に結婚し、2002 年に長男が生まれました。中国の大学の教師だった元妻（2007 年に離婚）は諸事情で中国での生活を望み、2003 年から私がシングルパパとして日本で息子を育てることにしました。息子は日本の保育園に通いましたが、引っ越しの際には保育園入所が叶わず待機児童も経験しました。たまに孤独を感じながらも楽しく子育てができました。今まで子どもを泣かせたことがないのは私の自慢です。息子も落ち着いた性格で、折り紙、絵を描くことが好きな子に育ちました。

近年は日本で子どもを産む外国人が増えていますが、ご両親の呼び寄せや長期滞在は容易ではなく、親からの子育ての指導を受けられないのは悩みです。そして、認可保育園に入れず、近くに類似施設がなく困っている親もいます。日本人の場合も、核家庭、待機児童、片親の単身赴任など様々な理由で子育てに悩んでいる親はたくさんいます。

日本の職場で育つ

2000 年から直接日本人と働き始めましたが、その中で日本人上司から教わった一番印象的なこととは「自分の頭脳を信じるな。思うこと、やりたいこと、全てを文字又は絵にして」と言われたことです。

まさにその通りです。脳の想像力はすごいもので、必ずしも現実的なものを想像している訳ではないです。ボリウッド映画を観て育った自分は確かに想像豊かでした。紙で具体化した時に初めて出来ること出来ないことの現実が見えてきます。また別の日本人上司から「よぎさん、例えばカメラ又は携帯電話などを購入した時にマニュアルを詳しく読んでから使い始めたことはありますか」と問いかけられました。一般的な消費者はマニュアルなど読まないからマニュアルを読まなくても使えるような製品づくりを促されました。日本に来てから日本風の書類の整理、スケジュール管理などを学び、一社会人として育てられたのです。感謝しています。

但し、私はホワイトカラー業界だったので恵まれている気がしますが、技能その他の業界については課題が山積しています。特に技能実習生の扱い方については制度を廃止するまで議論が拡大しています。

日本人と外国人コミュニティとの関わり

情報技術(IT)の仕事をしながら中野区、町田市、市川市などを転々とした後、2005 年に江戸川区西葛西の小島町二丁目団地(1500 世帯余り)に引っ越しました。ここで地域のインド人の集いなどのお手伝いも始めたのです。引っ越して間もなく夏祭りです。よくみると年配者だけで準備をしています。私も勝手にテーブル、椅子、テントなどの設営を手伝いました。以降、団地内の餅つき大会、敬老会、掃除活動などに積極的に参加しました。翌年、団地の自治会から役員にさせてもらい、団地内の日本人と外国人間のトラブルに関わるようになったのです。

ここで言い忘れてはいけないことがあります。外国人の住まいの問題です。都市機構や公団のお陰で多くの外国人は都内で住まいを獲得できています。但し、今でも、外国人に部屋を貸さない民間オーナーが多いです。理由は、独特な臭いが残ることと、保証人が見つからないということです。後者については近年、保証会社が対応してくれますが、前者はいまだに解決策はありません。オーナーの気持ちも分からない訳ではないですが、長期目線の全国的な対応を考えなければなりません。

外国人は日本のマナーを知らない

当時、この団地の二割以上の世帯は外国人でした。ベランダでうるさく電話をしている、テレビの音量が大きい、子どもが廊下で走っている、夜の遅い時間の話声、ゴミの間違った分別などが日本人と外国人の間のトラブルの一般的な原因です。両側の話を聞いてこの時に思ったのが、インド人・外国人は日本のマナーを守りたくない訳ではなく、日本のルールを熟知していないからだ、ということです。

団地内で外国人向けの講習会を開くことにしました。日本人にも外国人の背景などを理解してもらう、異文化理解から多文化共生への旅が始まったのです。インド人コミュニティでは SNS で情報共有を開始したのです。

外国人が増え続ける中、もうこのレベルでの努力だけでは足りないです。行政からの対応が不可欠で、マナーやルールの動画を SNS に掲載し、外国人が入居届けをした際に強制的にその動画を見てもらうなど工夫が必要です。各自治体のウェブサイト、手続きの多言語化が求められています。

年配者世代との交流

住んでいる団地の町会の役員となり、年配者世代との交流が増えて来ました。

団地の低層階にたくさんの年配者が住んでいて、その方々と話すと時間が余っていて退屈されていると聞きました。息子を連れて行ってみなさんとおしゃべりしたり、出かけたりしていましたが、その中で10年以上もやり続けているのはパソコン教室と春秋の旅行です。このような活動を通じて地域の年配者の気持ちも少し理解することが出来たと思います。そして、みんなに見守られている気がします。

近年、日本人にしても多世代間の交流が減っています。地元での祭りの運営が危うくなっているところもあります。逆に、年配者や特定の目的で町会の運営を握り、安易に若者を受け入れない町会もありますが、そういったところは若者に力強く運営に関わってもらいたいと思います。楽しいですよ。

外国人への情報発信不足

そして、2011年、東日本大震災で、大きな課題を見出しました。この緊急事態に対し、政府、行政、大使館から、多言語による十分な情報はなく、また情報に透明性はなく、我が団地からは、約四割の外国人が母国に避難しました。地方に住むインド人にまで情報を発信することが難しく、インド関連の諸団体のリーダーたちと、日本全国で福祉活動が出来るような組織の形成を考え始め、それが「全日本インド人協会（AJAI）」の発足へと繋がったのです。当時は地震の振動でガス栓が自動的に止まってしまい、人びとはその再開方法すら知りませんでした。このことを教訓に団地内に英語の掲示物を増やし、災害キットの準備、防災訓練への参加、お互いへの協力などを、外国人に促すことにしました。私は、国はもはや、全国規模の多言語災害対策サイトを構築すべきと考えます。パソコンまたはスマホの画面で、日本の地図の任意の場所をクリックすると、リアルタイムで災害情報が分かるようなものです。家族が離れて住んでいる場合でも役立つサイトになると思います。

外国人児童の教育問題

大地震直後には、東北の亘理町、気仙沼にボランティアに行き、地元で募金活動などをしました。不思議とインドに帰る気にならず、ボランティアを通じて「日本の一員」になったという思いが強くなり、帰化する決心をしました。インド人学校に通学していた息子も日本の学校に転校し、公立小学校に2年間、公立中学校に1年半通いました。私はPTAの学年長、副会長など学校の活動に積極的に参加しました。ところが、息子が中学校で先生による酷いいじめを受け、かなり悩んだ末、息子の海外への留学を決めました。息子は奨学金を得てイギリスに留学、現在18才で、2021年6月にイギリスの高校を卒業する予定です。日本の公立小中学校でのいじめと虐待が撲滅され、多様性が認められ、一人ひとりが生き生きとする教育が必要だと感じました。そのためにも多言語、グローバル教育、思いやりと哲学を導入すべきと考えます。一方、国内のインターナショナルスクールに通う子どもの場合は日本語が上達しない、地元の友達が少ない、国内大学への進学は難しいなど、また別の課題が山積しています。インターナショナルスクールに通う多くの子どもは海外の大学に進学してしまい、逆頭脳流出という現象が発生しています。国内の外国人が増えるなら、教育の在り方についてそれなりに考えていく必要があります。

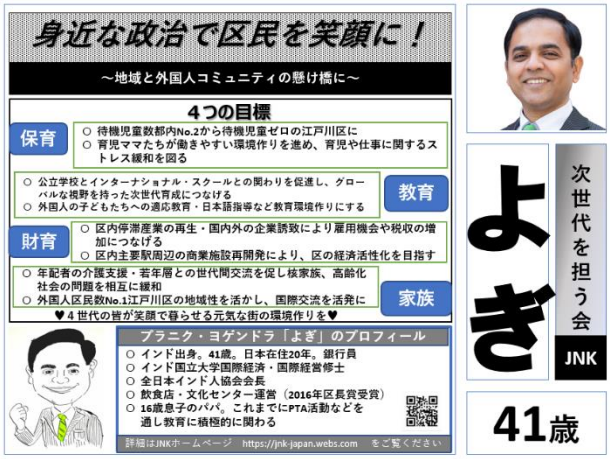
日本での起業とその苦戦

2012年のことです。来日している母親と私が発熱をしました。二人が一部屋に隔離し、息子にお金を渡して飲食店からご飯を買ってもらっていましたが、いつも買って来るのはナン、バターチキン、タンドゥーリチキンのようなもの。そのことからひらめき、西葛西（移転して

今は葛西）で東京初の印度家庭料理店レカを開店しました。私の母レカが厨房に立ち、我が家と全く同じ料理を提供し、全国的に話題の店となりました。ぐるなびから日本のインド料理業界の「宝珠」と称され、江戸川区長賞も頂きました。

でも、この道のりは簡単ではなかったのです。店の内装、衛生管理のこと、家具の選定などについてはインド人同業者が情報をシェアしてくれないし、銀行は簡単に口座を開設してくれません。内装業者に騙され、裁判沙汰にもなりました。四苦八苦を繰り返しながら、必死に働き、やっと掴めた成功でした。この店を通じてインドに関する正しい情報の発信を始め、2016 年に葛西の町で江戸川印度文化センターを設立しました。このセンターでヨーガ、言語、歴史、音楽などの勉強会やライブハウスを開催し、全国の中高生、大学生、研究者へのレクチャーも行っています。日本で起業をしたがる外国人はたくさんいますが、手続きの簡素化、多言語化、銀行の協力体制など推進すべきと考えます。

リトルインディア計画への反対と政治家への道



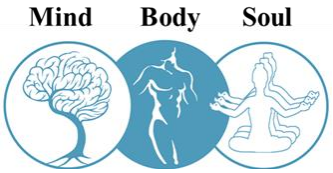
2017 年ごろ、私が住んでいる地域で「リトルインディア」を作る話が出ました。私はシンガポール、イギリス、アメリカのリトルインディアに何度も行ったことがありますが、全てが分断社会、偏見社会を作ってしまっていると、その時感じました。ゴミのマナーなどは守られず、徐々に行政からも無視されるようになり、インフラ整備や掃除などが遅れていきます。低所得、低学歴の者が集まり、経済、教育などの観点から遅れた地域になっていきます。一番気になるのは、これらのリトルインディアではインド人のビジネスマンが少ないことです。自分の経験からも、このリトルインディア計画に対し、住民へのアンケートによる方針改善を提案したのですが、受け入れてもらえませんでした。そこで、計画そのものに反対することにしたのです。区長、地域係に陳情を書き、面会して反対の意味を説明し、地域の住民に訴えました。この行動を通じて、外国人は何を考えているのか、何を求めているのか、分断した社会を避け、何をしたら外国人と日本人の共存だけではなく共生が可能になるのか、自ら行政に伝えたいと思いはじめ、政治への道を選び、2019 年の 4 月に立候補したのです。立候補した時に、何を公約するか悩んだのです。そのために街を回り多様な 300 人の方々にヒアリングをし、公約をまとめたのです。

外国人と日本人の真の交流

近年の政策変更により、在日外国人数が年々急増しています。茨城県では農家の三人に一人が外国人です。この人たちは良い就職、良い生活を求めて日本に来ています。でも、日本語や日本のマナーを熟知していません。また、行政、警察や一般の日本人にとっても「外国人」が一括りになっていることが多く、外国人も国や地域によって様々な違いを持っていることを理解されていません。外国人一人ひとりの文化的背景が違う、それは年に一度の文化祭などを通じて理解することは出来ません。外国人と日本人の両方に対し教育・研修の機会、常に交流が出来る機会を作っていかなければなりません。このためには個人、町会、行政の努力、つまり自助・共助・公助が必要であると考えます。また、偽造書類などを使い不当に入国する、入国させる悪い人たちも中にはいます。その悪い人たちのせいで全ての「外国人」が悪く見えることもあり、入管、警察などでの外国人への不当な扱いの事案はいくらでも耳にします。このようなことを改善すべく、優しい対応を求めていきたいと思っています。

ボディー、マインドとソール

私は、ボディー・マインド・ソールの三つの要素のバランスを大切にしています。ヘルシーなご飯や体操などを通じて健康な体を作り、学習や読書などを通じて知識を集め、哲学の勉強やボランティア活動などを通じて精神をフリーにすることを目指しています。この三つの要素に優先順位はなく、そのバランスが大切であると思いますが、今の世の中は思いやり、助け合い、譲り合いが一番必要で、それこそが人類の、地球の、宇宙の平和につながると思います。みんなで、平等で平和な世の中を目指そう！



私の公約と展望

区議会議員になってから一年半、議会や行政の運営を内側から見ることが出来ました。全てを理解しているわけではありませんが、区議会は政党や会派で分断されていて、二重民主主義になっている気がします。議会での意見表明は政党や会派で固まったものではなく、地域で選ばれた一人ひとりの議員が自分の地域の意見を表明出来るようになるべきだと考えます。行政としては問題の一元的な分析・管理は多いですが、二次元・三次元のマトリックス分析による誰も取り残さないような行政改革、分散型経済対策、教育改革、多文化共生をテーマにして活動していきたいと思っています。そのためにスマートシティと持続可能な開発目標（SDGs）の正しい理解と導入も促していきたいです。

2021 年 2 月から自らの政治塾を始めます。政治を特別の人たちだけのものにせず、もっと普通に理解し、語り合えるように、そしてそこからたくさんの若くて多様な政治家が誕生してくれることが願いです。私の現在の目標は、2022 年の参議院選挙に挑戦し、省庁との直接の会話や交渉を通じて、全国規模で変化を起こしていきたいと思っています。応援のほど宜しくお願いします。

よぎ（プラニク・ヨゲンドラ） 江戸川区議会議員。日本以外のアジア出身者として初めての当選となった。インド、マハラシュトラ州出身。23 年以上の国際勤務経験。当選前まで日系都市銀行で管理職として勤務。人気印度家庭料理店レカ及び江戸川印度文化センターの設立・経営。全日本インド人協会・会長。インド人コミュニティの代表ボランティアとして活動中。

3. 日本の神々の体系に反映された日印文化の混淆
India-Japan Cultural Syncretism Reflected in Japanese Pantheon of Deities

インド大使館ヴィヴェーカーナンダ文化センター所長
シッダールト・シン

「文化的に言えば、インドは日本の母である。インドは数世紀にもわたり、特徴的な方法で、日本の思想と文化に影響を及ぼしてきた。....インドの影響がなければ、日本文化は、今日の様相を呈していなかったであろう。ほとんどの日本人は自らを仏教徒と称している。言うまでもなく、彼らは総じてインド思想に大きな影響を受けてきた」(中村 元) [1]

「日本文化の底辺にはインド文化が克明に刷り込まれていると認識することは、日本人にとって非常に重要です」(榎泰邦 元駐インド日本大使) [2]

インド文化が日本の過去と現在にどれほど密接に組み込まれているかを知ることは重要である。その明らかな例が、様々な神々の像が祀られた日本の神社仏閣に見られる。日本の神社仏閣に遍在する多くの主要な神やマイナーな神は、古代インドの神々の体系に由来するが、これらの神々は中国を経由して中国名で日本に伝わってきたため、ほとんどの日本人は、彼らの起源を知らない。

インド文化が日本に伝わったのは、韓国から仏教が正式に伝わった 552 年以前のことであるといわれている。635 年に書かれた『梁書』によると、古墳時代（250～538 年）の 467 年、インドのガンダーラ地方から 5 人の僧侶が日本に渡ったとされている[3]。仏教の伝来後、ラージグリハ（インド・ビハール州）出身の僧侶アーリヤダルマが中国を経由して日本に入国したのは、菩提僊那が難波（大阪）に到着するはるか前の 645 年（CE）[4] であったという説がある。

アーリヤダルマは、サンスクリット語を教えるだけでなく、京都最大の祭の一つである祇園祭の起源となった儀式や、香川県で最も有名な神社で四国全域にある、また日本で最も人気のある巡礼地の一つでもある金刀比羅宮・琴平神社の創建の動機となった儀式を日本にもたらした。「婆羅門」という語はサンスクリット語でいう「Bārāmon （僧侶）」に由来し、特に菩提僊那を指すために使用されたが、同様に、「金毘羅」とは、サンスクリット語の「Kumbhīra」[5]とパーリ語の「Kumbhila」[6]の日本語表記である。Kumbhira/Kumbhila は「ワニ」を意味するが、この神社も、元々はヒンドゥー教でガンジス川のワニの神を意味するクンビラの日本版である金毘羅大権現を祀っている。ワニはガンガ川とナルマダ川を体現する神の乗り物であり、ヴァルナ神の乗り物（vahana）でもあり、愛の神カーマデーヴァとも関連付けられている。カーマデーヴァの妻はどこへ行くにもワニを連れて行く。

最も初期に来日した著名なインド人は、736 年に南インドの都市マドゥライから来日した仏僧・菩提僊那である。彼は奈良の大学でサンスクリット語を教えるように任命され、インドの神話や伝説を教えた。また、サンスクリット語の悉曇（しったん）文字を教え、華厳経の発展においても重要な役割を果たした。吉備 真備（きびのまきび、「吉備大神」）とともに、日本語の表音文字であるカタカナ音節を考案したとの説もある。

菩提僊那は、西暦 752 年、天皇の要請により、東大寺大仏の落慶法要において、大乗盧舎那仏の開眼式を執り行った著名な人物の一人であり、大仏の半眼に墨を入れたのは彼だったと言われている。菩提僊那は、教育、宗教、芸術の分野に貢献しただけでなく、日本の生活様式にも影響を与えた。 [7]

しかし、ヒンドゥー教の神・女神の体系全体を日本に紹介したのは、偉大な仏僧の空海であるとする信憑性の高い説がある。 日本の真言宗の開祖である「弘法大師」こと空海（774-835）は、サンスクリット語や密教経典を学んだ留学先の長安で、インドのナーランダ大学で教育を受けたインドの僧侶・般若（Prajñā）と出会った[8]。金剛乗仏教は、インドの仏僧である金剛智や不空金剛が中国に広めた。空海は唐への留学中、密教を学んだほか、般若三蔵からサンスクリット語を学び、サンスクリット語と悉曇文字を日本に紹介した。その頃には、すでに様々

なヒンドゥー教の神や女神が金剛乗仏教の宗教的・儀式的実践の一部となっていたため、この時、空海は、日本の神の体系にヒンドゥー教の神々をもたらしたことになる。

大乗仏教における仏は、一般的に「如来部」、「菩薩部」、「明王部」、「天部」の四つのグループに分類される。天部（サンスクリット語ではdeva）は、仏教の守護神を意味する。天部に属するほとんどの守護神の起源は、古代インドのヴェーダ（ヒンドゥー教の最古の形態）の神々に見出される。これらのヴェーダの神々は仏教に取り込まれると、仏教の「法」（サンスクリット語ではdharma）の守護神となり、仏教と神道の両方の属性が与えられた。階級的には、この守護神集団は如来部、菩薩部、明王部に次ぐ第四位に位置している。

天部の神々は例外的な長寿の恩恵を受けてはいるものの、輪廻する存在であり、悟りと涅槃の世界の外にある。しかし彼らは最終的には涅槃に到達することを目指しており、仏教とその信者を助けようと努めている。古代インドの宇宙論を取り込んだ仏教宇宙論によると、神々は「三界」に住んでいて、須弥山（しゅみせん、古代インドの世界観の中で中心にそびえる山）の宇宙軸に対する位置によって階層的に配置されている。須弥山上の空高くには梵天（Brahma）、山頂には帝釈天（Indra）を王とする三十三天、五合目の高さには東洋の神王、下部には下級の神々が存在している。天部の神々のほとんどはインドの神に由来している。

毘紐天（サンスクリット語ではVishnu）、不動明王（Acalanātha）、烏摩妃（Uma）、羅睺（Rahu）、緊那羅王（Kinnara）娑伽羅龍王（Sāgara）、那羅延天（Nārāyana）、摩醯首羅王（Maheshwara）、迦楼羅王（Garuda）、阿修羅王（Asura）、畢婆迦羅王（Vibhākara）、婆藪仙人（Vasu/Vashishtha）、摩睺羅伽王（Mahoraga）など、日本の神々の体系における多くの神／天はインドの伝統に由来している。ヴァルナ、インドラ、ブラーマー、ヤマ、カーマデーヴァ（Varuna, Indra, Brahmā, Yama, Kāmadeva）などのようにインドではもはや一般的に信仰されていない神々が、日本では天部の不可欠な一部として崇拝されている。

日本の神話では、「七福神」が幸運をもたらすと信じられている。この七福神のうち4人の神は、古代インドの神々に直接的に由来することが知られている。4人の神とはすなわち、弁財天/弁天（Sarasvati）、毘沙門天/多聞天（Vaiśravaṇa /Kubera）、大黒天（Mahākāla/Shiva）、吉祥天/功徳天（Lakshmi）である。第七の福神として、吉祥天の代わりに中国発祥の福禄寿が登場する神話もある。弁財天／サラスヴァティ、吉祥天／ラクシュミとともに、ヒンドゥー教の女神マハカーリは、日本では大黒天女として知られている。ヒンドゥー教の三女神が日本化していることとなる。同様に、歓喜天もヒンドゥー教のガネーシャから多くの異名と特徴を受け継いでいる。 歓喜天は、毘那夜迦天（びなやかてん：ガネーシャの別名Vināyakaに由来する）、誐那鉢底（がなぱてい：人気のある呼び名であるGaṇapati に由来する）とも呼ばれている。ガネーシャと同じように、毘那夜迦は障害を取り除いてくれる神で、人が祈願すると、物質的な富、繁栄、成功、健康を授けてくれる。また、毘那夜迦は悪を滅ぼし、争いを解決し、人々を道徳的な道へと導くとも言われている。

弁財天は6世紀から8世紀にかけ、『金光明経』漢訳を通じて日本に伝わった。『金光明経』には弁財天に捧げられた経が含まれている。また、『法華経』でも、弁財天に言及した箇所がある。.[9] 弁財天信仰は、6世紀から8世紀までの留学僧によって支那から日本にもたらされた。 1197年、源頼朝は関東に、弁財天を祀った寺（現・井の頭弁財天）を建立した。[10]。弁財天は、インドでヒンドゥー教の女神サラスヴァティが楽器ヴィーナを持って描かれることが多いように、琵琶を持って描かれることが多い。サラスヴァティから日本の弁財天に継承された二つの資質は、音楽と知恵である。

日本の神々の体系における十二天[11]は、ヒンドゥー教の八方位を守る守護神（八方天）に由来する。八方天が後年、天地の神々を加えて十天になり、さらに後に太陽と月の神々を加えて十二天になった。日本の密教美術では、四天王に代わって十二天が一般的に用いられているが、十二天は四天王と同じように仏教を護り、悪鬼を退治する役割を果たしている。

十二天に属する神々は：

1. 梵天（大梵天王）：天空を支配する – 宇宙を創造したブラフマーと同様に、四方を見下ろすための四つの頭を持っている（多くの場合、1つの頭だけで描かれている）。
2. 帝釈天（東を支配する）： インドラと同様に、すべての自然の力を司る。
3. 毘沙門天（北を支配する）：サンスクリット語ではVaisravanaと呼ばれる。『ラーマヤナ』では、ランカ国の支配者であり、ラヴァナの異母兄。
4. 火天（南東を支配する）：ヒンドゥー教の儀式Agni homaにおける火の神アグニと同様に、真言宗の護摩の儀式で召請される。

5. 焔魔天／炎魔天（南を支配する）　：Yama と同様に、死と地獄の神である。
6. 羅刹天（南西を支配する）：Nirrti／Rakshasa と同様の神。
7. 水天／水神／水王（西を支配する）：　Varuna と同様に、水を司る神である。
8. 風天／風神（北西を支配する）：Vaayu と同様に、風を司る神である。
9. 伊舎那天／大自在天／自在天（北東を支配する）：Isana／Siva と同様の神。
10. 地天／堅牢地神（下方を支配する）：Prithvi と同様に地を司る神。
11. 日天／大日天王／日光：仏教を守る太陽の神。　帝釈天に従う神と言われている。
12. 月天／月光：仏教における月光菩薩。　日光は Suryaprabha、月光は Chandraprabha。

仏教寺院だけでなく、日本の神社においても、ヒンドゥー教の神々の存在は大きい。 水天宮（東京都中央区）は「水天の宮殿」を意味し、海の神であるヒンドゥー教の神「ヴァルナ」の和名である「水天」を祀る神社である[12]。ヴァルナは、仏教とともに日本に伝わったヒンドゥー教の神々のひとつで、神道に組み込まれた。日本には他にも 25 社ほどの水天宮がある。

英語では lion-dogs と呼ばれることが多い狛犬は、日本の多くの神社で見られる、入口や本殿、または内宮を守る獅子のような生き物の一対の像である。狛犬は、仏教寺院や高貴な人の住居、個人の住宅でも見られることがある。狛犬は悪を追い払うために作られたものである。現代の狛犬は、一対の両方とも同じ姿をしているが、一方は口を開けていて、もう一方は閉じている。口を開けているものは「阿形」、口を閉じているものは「吽形」、総称して「阿吽（あうん）」と呼ばれる。

「阿吽」は仏教由来のもので、象徴的な意味を持っている。開いた口は「ア」と発音されるサンスクリット語のアルファベットの最初の文字を、閉じた口は「ウム」と発音される最後の文字を発音しており、すべてのものの始まりと終わりを表している[13]。一対の 狛犬は、ヒンドゥー教、仏教、ジャイナ教のようないくつかの宗教で神聖な音節とされる「オーム」を形成している。

日本の神々の体系は単なる崇拝の対象ではなく、古代から現代に至るまでの連続性における、日本とインドの切れ目のない豊かな文化的相互関係を体現している。日本の無数の寺院には、古代インドとのつながりを強調する多くの物語があり、そのような絆をより深く探求することは、日本文化を豊かにするだけでなく、偉大な両国の結びつきのさらなる強化にも繋がるだろう。

参考文献:

[1]. [Manohar, J. (2020, July 06). Worship of Devi Saraswathi in Japan. Retrieved October 24, 2020, from https://www.softpowermag.com/worship-of-devi-saraswathi-in-japan/

[2]. Indiandiplomacy. (2016, January 06). Indian Deities Worshipped in Japan. Retrieved December 08, 2020, from https://www.youtube.com/watch?v=ff95twceJR4

[3]. LELAND, C. G. (2020). *FUSANG: Or, The discovery of America by Chinese Buddhist priests in the fifth century*. ROUTLEDGE.

[4]. Kaburagi, Y. (2012). *Ancient Indian influence on Japanese culture: A comparative study of civilizations* (p. 50). New Delhi: Munshiram Manoharlal

[5]. Sanskrit Dictionary. (n.d.). Retrieved November 1, 2020, from https://sanskritdictionary.com/?iencoding=iast&q=crocodile&lang

[6]. Malalasekera, G. (n.d.). Dictionary of Pali Proper Names. London: Pali Text Society. Retrieved November 12, 2020, from http://www.palikanon.com/english/pali_names/ka/k6_ky.htm

[7]. Medhasananda, S. (2020). *The Story of India-Japan Relationship*. Kolkata: Advaita Ashrama

[8]. Keown, D. (2004). Prajna. In *Dictionary of Buddhism*. Oxford: Oxford University Press. Retrieved September 9, 2020, from https://www.oxfordreference.com/view/10.1093/acref/9780198605607.001.0001/acref-9780198605607

[9]. Ludvik, C. (2001). *From Sarasvatī to Benzaiten* (Unpublished doctoral dissertation). University of Toronto.

[10]. Muza-chan. (2011, August 12). Japanese Red Bridge at Inokashira Benzaiten. Retrieved December 09, 2020, from https://muza-chan.net/japan/index.php/blog/japanese-red-bridge-inokashira-benzaiten
[11]. Schumacher, M. (n.d.). Retrieved November 09, 2020, from https://www.onmarkproductions.com/html/12-devas.shtml
[12]. Ame no Minakanushi no Kami (天之御中主神). (n.d.). Retrieved October 5, 2020, from https://japanese-wiki-corpus.github.io/Shinto/Ame%20no%20Minakanushi%20no%20Kami.html
[13]. Japanese Architecture and Art Net Users System. (n.d.). A un　阿吽. Retrieved November 18, 2020, from http://www.aisf.or.jp/~jaanus/deta/a/aun.htm

起源となっているインドの神々／キャラクターと日本化した神々の表

インドの神々／キャラクター（サンスクリット語名）	日本化した神々	天部に属する日本の神々
サラスヴァティ（Saraswati）	弁財天/弁天。弁財天が持つ楽器「琵琶」は、サラスヴァティが持つ楽器「ヴィーナ」（Veena）に由来する	七福神に含まれる三神
ヴァイシュラヴァナ／クベーラ（Vaiśravaṇa ／ Kubera）	毘沙門天/多聞天、十二天でもある	
マハーカーラ／シヴァ（Mahākāla/Shiva）	大黒天、大黒天女（大黒天の女性形。インドの女神マハーカーリーが日本化した）	
ドゥリタラーシュトラ（Dhritarāshtra）	持国天（東）	四天王（東西南北の神）と中央の神
ヴィルーパークシャ（Virupāksha）	広目天（西）	
インドラ（Indra）	帝釈天（中央）	
ヴァイシュラヴァーナ（Vaiśravaṇa）	多聞天（北）	
ヴィルーダカ（Virudhaka）	増長天（南）	
ブラーマー（Brahmā）	梵天（天の支配者）	十二天／十二大天衆
インドラ（Indra）	帝釈天　（東の支配者、最強神）	
火神アグニ　（Agni）	火天（南東の支配者）	
死と地獄の神、閻魔大王：ヤマ（Yama）	焔魔天／炎魔天　（南の支配者）	
ニルティ／ラクシャサ（Nirrti／Rakshasa）	羅刹天　（南西の支配者）	
水神ヴァルナ（Varuna）	水天／水神／水王　（西の支配者）：対応する神道の神は、単体で信仰されている水神。	
風神ヴァーユ（Vāyu）	風天（北西の支配者）	
イシャーン（Ishān）	伊舎那天／大自在天。別名・自在天（北東の支配者）	
プリティヴィ（Prithvi）	地天／堅牢地神（下方、大地の支配者）	
スーリヤ（Surya）	日天／大日天王／日光	
チャンドラ（Chandra）	月天／月光	
アースラ（Asura）	阿修羅	八部衆
ガルーダ（Garuda）	迦楼羅	
ガンダルヴァ（Gandharva）	乾闥婆	
キンナラ（Kinnara）	緊那羅	
マホラガ（Mahoraga）	摩睺羅伽	
ナーガ（Nāga）	龍	
デーヴァ（Deva）	天	
ヤクシャ（Yaksha）	夜叉	
アニラ（Anila）	頻儞羅	十二神将（ Bhaiṣajyaguru）
アンディラ（Andira）	安底羅	
ヴァジュラ（Vajra）	伐折羅	
ヴィカラーラ（Vikarāla）	毘羯羅	
パジュラ（Pajra）	波夷羅	
インドラ（Indra）	因達羅	
クンビーラ（Kumbhira）	宮毘羅	
マホラガ（Mahoraga）	摩虎羅	
ミヒラ（Mihira）	迷企羅	
シャンディリヤ（Sandilya）	珊底羅	
シンドゥーラ（Sindura）	真達羅	
チャトゥラ（Catura）	招杜羅	
ラクシュミー（Lakshmi）	吉祥天／ 吉祥天女／功徳天	単体でも信仰されている神
ガネーシャ（Ganesha）別名・ヴィナヤカ（Vianayaka）/ガナパティ（ Ganapati）	歓喜天／聖天／大聖天／大聖歓喜天／天尊／歓喜自在天／毘那夜迦天／誐那缽底／象鼻天	
ハリティ（Hariti）	訶梨帝母/ 鬼子母神	
スカンダ（Skanda）	韋駄天	

シッダールト・シン（Siddharth Singh） インド、バナーラス・ヒンドゥー大学にて博士学位取得後、 2003-2004 年、国際交流基金フェローシップにより、国際 交流基金関西センター（大阪）にて「近 現代日本におけるパーリ仏典研究」のテーマで研究を行う。2005 年 Vadrāyana Vyās President 賞（インド）受賞。2011-12 年、フルブライト・シニアリサーチフェローシップによりアメリカ、コロラド大学 にて研究。現在は在日インド大使館 ヴィヴェーカーナンダ文化センター長およびバナーラス・ヒンドゥー大学教授。この間スウェーデン、日本、中国、タイ、ベトナム、スリランカ、ミャンマーなどの大学・研究機関で授業、研究も行っている。専門分野はパーリ仏典、上座部 仏教を中心としたインドの宗教研究。主な著書に Saddhammasangaho（13 世紀までのインド仏教史、パーリ・テキスト校訂および翻訳研究）等がある。

4.「アジアの価値観と民主主義」シンポジューム の開催を回顧して

“Shared Values and Democracy in Asia” Symposium

公益財団法人日印協会理事長　平林 博

去る 12 月 21 日、東京大手町の日経ホールにて、表記のシンポジュームが開催された。

この会議は、2014 年、安倍晋三総理（当時）とナレンドラ・モディ首相が首脳会談で合意したもので、アジア諸国が協力してアジアの多様性の中で価値観を共有し、民主主義を促進していくことを使命としています。

今回は、新型コロナの脅威の下で開催されたため、会場の日経ホールには日本人参加者、在京大使館代表などが参列しましたが、外国の参加者はウェブを通して発言し、内外の視聴者もウェブを通して視聴しました。

壇上の菅義偉総理

冒頭、来場した菅義偉総理は、「アジアの価値観には多様性や寛容性を尊重する考えがあり、アジアの民主主義はこうした価値観の上に発展してきた。わが国は選挙監視団の派遣や人材育成などを通じて民主主義の促進に貢献したい。」とのメッセージを発しました。

ついでモディ首相は、ヒンディー語と英語を交え、スクリーンの上で、「アジアには多様な宗教があるが寛容の精神があり、それがアジアの民主主義に欧米のものと異なる性格を与えている。昨年はガンジー生誕 150 周年であったが、ガンジーの考え方はアジアの価値観の中で生き続けている。」との趣旨の祝辞を届けました。

リモート講演したモディ首相

ついで、スリランカのシリセーナ元大統領は、次のような挨拶をしました。

「サンフランシスコ講和会議において、ジャヤワルダナ大統領は仏教の法華経を引用し、『我々はかつて植民地化され搾取されたが、損害賠償は求めない。憎しみは愛によってのみ超えられる。憎しみは憎しみによっては越えられない。』と述べて、日本への好意的な態度を各国に呼び掛けた。そのような哲学理念は今日のアジアの価値観や民主主義のコアをなしている。」

その後、第 1 セッション「アジアにおける宗教と共生、信仰の自由」では、モデレーター山下博司東北大学名誉教授の司会でシンガポール、フィリピン、インドネシア、インド、日本、マレーシアの識者が見解を披露しました。

特別講演として、日本パラリンピック委員会代表とニュージーランドのウオーカー・アスリート権利義務宣言運営委員会委員長が「東京オリンピック・パラリンピックの価値観と寛容」について見解を述べました。

第2セッションでは、「多様性の中の民主化―ガンジー生誕150周年」と題して、渡部恒雄笹川平和財団上席研究員の司会により、インド、タイ、モンゴル、台湾、オーストラリアからの識者が議論を展開しました。

閉会の辞として、共催者インドのヴィヴェーカーナンダ国際財団の代表が挨拶し、後援者たる日印協会の筆者が締めくくりました。

筆者が述べた要旨は次の通りです。

閉会の辞を述べる筆者

1. アジアでは古い歴史と多様性により価値観が多様、宗教も多様だが、基本的人権、民主主義、宗教の自由と寛容は普遍的価値であるべき。これらの点で改善を要するアジアの国々もあるが、文化的・知的交流、観光を含めた人的交流、情報の自由な交流などで改善を促したい。
2. ガンジーの教えは、将来への道を照らす松明（Torch）である。
3. 東京オリ・パラは新型コロナに打ち勝った競技として特別な里程標となろう。
4. 安倍前総理が提唱した「自由で開かれた、そして包摂的なインド太平洋ビジョン」はこれからも我々を導く大きな理念であるが、日印米豪などの他、多くのアセアン諸国、さらには多くのEU諸国が関与するようになった。このビジョンの中核をなすのは、私がインドに駐在した2000年に、当時の森喜朗総理とヴァジパイ印首相が打ち出した「21世紀のための日印グローバル・パートナーシップ」である。その後、小泉純一郎総理とマンモハン・シン首相の間で「戦略的」なる形容詞が付け加えられ、さらに安倍総理とモディ首相との間で精神的絆の強さを示す「特別」という形容詞も加わり、3つの形容詞で飾る「日印特別戦略的グローバル・パートナーシップ」へと発展した。このパートナーシップは、文字通りグローバルな、アジアさらには世界のために貢献することを目指すものであり、アジアの価値観と民主主義の発展・共有の核をなすものとなろう。

（了）

5. インドニュース(2020 年 12 月)
News from India

1　内政

【連邦政府】
12 月 10 日
モディ首相臨席の下、国会議事堂新築に向けた定礎式が行われた。

【農業関連法】
12 月 4 日
現地メディアは、3 日に開催された農民代表と中央政府大臣等による協議が結論に至らなかった旨報じた。7 時間に渡って行われた同協議では、政府側は農業関連法のレビューを行い、農民の要求に応えるために必要であれば修正を行うことに合意した。中央政府は、農民に対して農業関連法に 8 点の修正を行い、最低支持価格（MSP）の保証を提供したものの、農民は農業関連法の撤回を強く要求した。

12 月 7 日
現地メディアは、カイラシュ農業閣外大臣が農業関連法は農民の利益に資するものであることを再強調し、同法律が撤廃されることはないが、必要であれば修正を行うと述べた旨報じた。また、同大臣は、作物に対する MSP（最低支持価格）は継続されると述べた。

12 月 14 日
全国で座り込みの抗議が行われ、一部指導者たちは、午前 8 時から午後 5 時までのハンガー・ストライキを実施した。また、ケジュリワル・デリー準州首相は、農民への連帯を示すため 14 日に断食を実施した。
トーマル大臣は、農業関連法への支持を表明しているマハラシュトラ州、ハリヤナ州、ビハール州、テランガナ州、タミル・ナドゥ州の全インド農民調整委員会（AIKCC）と面会した。

12 月 16 日
グジャラート州カッチにおける牛乳加工工場定礎式に出席したモディ首相が、「現在、農民を間違った方向に導いている野党の人々は、自身の政府（コングレス政権）の時はこれらの農業関連法改革に賛成していた。彼ら（コングレス等）は、決定を下すことができなかった。今日、国が歴史的な一歩を踏み出すと、これらの人々は農業を誤った方向に導いた。」と述べた。

【冬季国会】
12 月 15 日
現地メディアは、コングレスが農民の抗議運動等について議論するため短期の冬季国会の開催をビルラ下院議長に要求したが、政府が新型コロナウイルスの感染状況を受け、冬季国会は開催しないことが望ましいと回答した旨報じた。

【全国ストライキ】
12 月 8 日
インド政府の推進する農業関連法に反対する政党（コングレス、左派政党等）、中央労働組合（CTU）等が、全国規模のストライキ（Bharat Bandh）を実施した。

【改正市民権法(CAA)】
12 月 12 日
アッサム州（AS）における州議会選挙を数ヶ月後に控え、同州において CAA に抗議する新たなラウンドが 11 日から開始された。同抗議運動は、北東部学生機構（NESO）、全アッサム学生連合（AASU）等、18 団体から支持を受けている。

【ジャンム・カシミール（ＪＫ）準州】
12 月 23 日
現地メディアは、JK で初の選挙となる地区開発協議会（District Development Councils、DDC）の協議員選挙結果として、全 276 議席中、BJP が単独で 74 議席した一方、グプカル宣言のための人民同盟（PAGD）が最大 110 議席を獲得した旨報じた。

【西ベンガル（ＷＢ）州】
12 月 9 日
ナッダ BJP 総裁は、2021 年の WB 州議会選挙を視野に、2 日間にわたり WB を訪問し、大規模なアウトリーチ・キャンペーンに参加した。翌 10 日、訪問中のナッダ BJP 総裁の車両への投石事案が発生、シャー内相（BJP）は州政府に公式報告を求めたがバナジー州首相（TMC）は BJP の自作劇と批判、州警察も事件を否定した。

12 月 13 日
現地メディアは、全インド統一ムスリム評議会（AIMIM）が 2021 年の WB 州議会選挙に向けた選挙体制を間もなく立ち上げる旨報じた。AIMIM 関係者は、「オワイシ代表が間もなく WB を訪問する。我々は、WB 州議会選挙を戦う。オワイシ代表が間もなく選挙委員会及び選挙を戦う議席数を発表するであろう。」と述べた。
【タミル・ナドゥ（ＴＮ）州】
12 月 4 日
現地メディアは、俳優のラジニカントが 2021 年に予定される TN 州議会選挙に新たな党を設立し出馬する旨報じた。新たな党は1月に設立される予定。この動きは、反DMK党が分散するため州与党ドラビダ進歩連盟（DMK）にとっては有利に働くとも見られているが、多くは今後の連合の動き次第との見方を立てている。

【テランガナ（ＴＬ）州】
12 月 5 日
ハイデラバード市議会選挙の結果が発表され、いずれの党も過半数となる 76 議席を獲得するに至らなかった（全 150 議席）。99 議席を保有していた与党テランガナ国民会議（TRS）は 56 議席まで減少した一方、テルグ党（TDP）との連合でわずか4議席を保有していたBJPは単独で48議席を獲得した。全インド統一ムスリム評議会（AIMIM）は 1 議席減少の 43 議席を獲得した。

【ビハール（ＢＲ）州】
12 月 8 日
ラム・ヴィラス・パスワン LJP 党首逝去により実施された上院議会補欠選挙において、スシル・クマール・モディ元 BR 州副首相が当選した。

【ラジャスタン（ＲＪ）州】
12 月 10 日
州内で実施されたパンチャーヤト（村落レベル）選挙は、BJP がコングレスに勝利。全 222 パンチャーヤト議会における 4371 議席の選挙において、BJP は 1989 議席を獲得、コングレスは 1852 議席を獲得した。BJP は 93 のパンチャーヤト議会で勝利した一方、コングレスの勝利は 81 議会にとどまった。

2　経済

4 日、インド準備銀行（RBI）は 2～4 日の 3 日間にわたって行われた金融政策決定会合（MPC）の結果を公表したところ、概要以下の通り。

ポイント

1. 金融政策決定会合の結果

○政策金利（レポ・レート）は 4.00%で据え置き。リバースレポレートも 3.35%のまま据え置き。

2. インフレ率見通し

○インフレ率の見通しは、過去 2 か月の予想に比べて悪化している。卸売インフレ率と小売インフレ率の間の実質的な不和は、供給側の障壁と消費者に課せられる大きな利ざやを表している。

○穀物の価格は豊富なカリフ季作物（雨期作物）の収穫が行き渡ることで軟化する可能性があり、野菜の価格は冬に収穫する作物によって緩和する可能性があるが、他の食品の価格は高水準で持続する可能性がある。

○原油価格は、需要回復による楽観主義、ＯＰＥＣの継続と減産により持ち直しており、当面は変動が続くと予想される。

○価格圧力は引き続きコアインフレに影響を及ぼすが、引き続き堅調であり、経済活動が正常化し、需要が回復するにつれて定まる可能性がある。

○これらすべての要因を考慮に入れると、消費者物価指数インフレ率は第 3 四半期に 6.8%、第 4 四半期に 5.8%と予測する。また 2021 年上半期では 5.2%～4.6%と予測する。

3. 今後の見通し

○成長見通しに目を向けると、農村部の需要の回復はさらに強まると予想されるが、都市部の需要も、特にＣＯＶＩＤ－19 によって移動を余儀なくされた労働者の活動と雇用に拍車をかけることで、勢いを増している。

○しかし、これらの前向きな勢いは、インド国内の一部で感染が増加する可能性があるために暗い見通しとなっており、いくつかの地域でロックダウンによる措置を促している。

○同時に、（感染者の）回復率は 94%を超えており、ワクチン試験の成功についてはかなり楽観的である。消費者は引き続き見通しに楽観的であり、製造業の企業心理は徐々に改善している。財政刺激策は、消費と流動性を支援するだけでなく、成長を生み出す投資を支援することへと移行している。

○一方で、民間投資は依然として低迷しており、稼働率は完全には回復していない。輸出の回復はまばらであるが、ワクチン開発の進歩により見通しは明るくなっている。接触集約型サービスの需要は、人々の間に社会的に距離を取るルール（social distancing norms）とリスク回避のために、しばらくの間は抑制され続ける可能性がある。

○これらの要因を考慮に入れると、実質ＧＤＰ成長率は 2020 年度に▲7.5%と予測される。また、2020 年度第 3 四半期は＋0.1%、第 4 四半期は＋0.7%、2021 年度上半期は＋6.5～21.9%と予測される。

3　外交

（印加関係）

12 月 1 日

インド外務省は、インド国内で農業関連法に反対する農民の抗議運動が発生していることに対するトルドー加首相のコメントにつき、民主国家の内政事項に関するものであり不当とするスリヴァスタヴァ報道官のコメントを発表した。

12 月 4 日

インド外務省は、駐印カナダ高等弁務官を召致し、インド農民の問題に関するカナダ首相、閣僚、国会議員によるコメントは、インド国内事情への受け入れられない干渉であると伝達した旨プレスリリースを発表した。

（印露関係）
12 月 2 日
インド外務省は、モスクワで印露国連安保理協議が開催された旨発表した。露外務省は、2021 年から 2022 年のインドの国連安保理非常任理事国入りを歓迎した。

（印・ＥＵ関係）
12 月 5 日
現地メディアは、2013 年 5 月以降停滞している印 EU 自由貿易協定の交渉について、停滞の理由は同協定に対するインド政府の懸念が理由かと問われたところ、ジャイシャンカル外相が、「2014 年以降の交渉の後ろ向きな姿勢は、インド政府側からではなく、EU 側からである。」と述べた旨報じた。

（印英関係）
12 月 15 日
インド外務省は、ラーブ英外相が 14～17 日にかけて訪印している旨発表した。訪印中、ラーブ外相は、ジャイシャンカル外相と外相会談等を実施したほか、ジャベドカル環境・森林相やポクリヤル教育相とも面会予定である。

（印仏関係）
12 月 7 日
インド外務省は、モディ首相がマクロン仏大統領と電話会談を実施した旨発表した。

（印・スペイン関係）
12 月 23 日
インド外務省は、ジャイシャンカル外相がアランチャ・ゴンサレス・ラジャ・スペイン外務・EU・協力相とテレビ会談を実施した旨発表した。
（印・バングラデシュ関係）
12 月 17 日
インド外務省は、印バングラデシュ首脳テレビ会談の共同声明等を発表した。

（印・オマーン関係）
12 月 2 日
インド外務省は、ジャイシャンカル外相がバドル・アル・ブサイディ・オマーン外相とテレビ会談を実施した旨発表した。

（印・ウズベキスタン関係）
12 月 11 日
インド外務省は、モディ首相がミルジヨーエフ・ウズベキスタン共和国大統領とテレビ首脳会談を実施した旨発表した。

（印・イスラエル関係）
12 月 7 日
インド外務省は、第 16 回印イスラエル外務協議がビデオ会議形式で開催された旨プレスリリースを発表した。

（印・カタール関係）
12 月 8 日
インド外務省は、モディ首相がシェイク・タミーム・ビン・ハマド・アール・サーニ・カタール首長と電話会談を実施した旨発表した。

12 月 28 日
インド外務省は、ジャイシャンカル外相が 27～28 日にカタールを訪問した旨発表した。

（印・ベトナム関係）
12 月 18 日
インド外務省は、モディ首相がフック・ベトナム首相とテレビ首脳会談を実施した旨発表した。

4　日印関係

12 月 18 日
高級事務レベルによる日米豪印協議がテレビ会議形式で実施された。

今月の注目点：日米豪印局長級協議に関する報道発表

12 月 18 日、高級事務レベルによる日米豪印協議がテレビ会議形式で実施されました。概要は以下のとおりです。（参加者：日本からは山田重夫総合外交政策局長及び遠藤和也アジア大洋州局参事官、豪州からはジャスティン・ヘイハースト外務貿易省副次官及びローレン・ベイン次官補（ASEAN 及び地域アーキテクチャー担当）、インドからはヴァニ・ラオ外務省米州局長及びナヴィーン・スリヴァスタヴァ東アジア局長、米国からはディビッド・スティルウェル国務次官補及びディーン・トンプソン筆頭国務次官補代理（南・中央アジア担当）が出席。）
1. 参加者は、10 月 6 日に東京で開催された第 2 回日米豪印外相会合のフォローアップとして、「自由で開かれたインド太平洋」の実現に向け、質の高いインフラ、海洋安全保障、テロ対策、サイバーセキュリティ、人道支援・災害救援、教育・人材育成を始め、様々な分野で実践的な協力を更に進めていくことで一致するとともに、北朝鮮、東シナ海・南シナ海を始めとする地域情勢についても意見交換を行いました。

2. 参加者は、「自由で開かれたインド太平洋」は地域の平和と繁栄に向けたビジョンであり、ポスト・コロナの世界において益々その重要性を増しているとして、その実現に向け、より多くの国々へ連携を広げていくことの重要性を再確認しました。また、この関連で、日本から、11 月の日 ASEAN 首脳会議において発出した「インド太平洋に関する ASEAN アウトルック（AOIP）」協力についての日 ASEAN 首脳会議共同声明等について説明し、参加者の間で、ASEAN の一体性及び中心性と ASEAN 主導の地域枠組みに対する強固な支持と、AOIP に対する全面的な支持を改めて確認しました。

3. 参加者は、今後も定期的に協議を行うとともに、第 2 回日米豪印外相会合で四大臣が一致したとおり、来年の適切なタイミングで次回の外相会合を開催すべく調整していくことで一致しました。

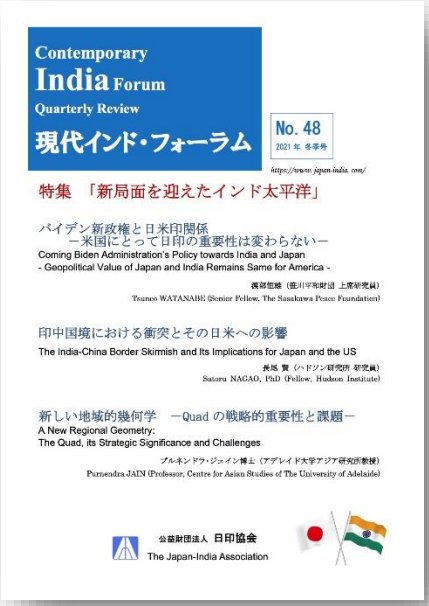
6. 新刊書紹介
Books Review

§日印協会発行『現代インド・フォーラム』2021 年冬季号　No. 48

日印協会会員に 1 月 4 日に PDF をメール配信致しました。協会 HP にも 1 月 6 日に掲載済ですので、次の URL よりご覧いただけます。

https://www.japan-india.com/forum/7025c209717538f4c51965c3bd9e5ee518a497a2

今号では、「新局面を迎えたインド太平洋」を特集し、下記 3 論文を掲載しております。



1. バイデン新政権と日米印関係
　　ー米国にとって日印の重要性は変わらないー
Coming Biden Administration's Policy towards India and Japan
- Geopolitical Value of Japan and India Remains Same for America -
渡部恒雄（笹川平和財団 上席研究員）

2. 印中国境における衝突とその日米への影響
The India-China Border Skirmish and Its Implications for Japan and the US
長尾 賢（ハドソン研究所 研究員）

3. 新しい地域的幾何学　ーQuad の戦略的重要性と課題ー
A New Regional Geometry:
The Quad, its Strategic Significance and Challenges
プルネンドラ・ジェイン博士（アデレイド大学アジア研究所教授）

本誌に関してご意見・ご感想等ございましたら、日印協会までご連絡ください。

§『橋の上の子どもたち』
著者：パドマ・ヴェンカトラマン　　翻訳：田中 奈津子
出版社：講談社
価格：本体 1,500 円＋税　　ISBN 978-4-06-521442-8

インドの子どもたちの話だ。

主人公は 11 歳の少女ヴィジ。彼女は父の暴力や、それを受け入れている母から逃れるために、自分の意思であてもないのに家を出る。障害を持つ、幼い妹のような姉も連れて子供だけで生きていこうとする。

インドではこのようなホームレスの子供は少なくなく、学校に通うこともなく、自分の力で生活費を稼ぎ、生きていくという。誇り高く、手を差し伸べる人を簡単に信用しない。

作者はこの物語を書くのに、同じ境遇の子供たちが書いた日記を参考にしたそうだ。この物語のもとになった人々への敬意から、実際に起こった出来事を基本的に変えることをしないで、彼らの思い出と人生を尊重したいとあとがきにある。

ぜひ本を二回読んでほしいと思う。一度目は先が気になってヴィジの力強い行動や言葉にひたる余裕がない。「今よりいい未来が欲しければ、自分で人生を変えなくちゃ」、私の好きなヴィジの言葉だ。　（日印協会　山本真里枝）

§『日本がアジアを目覚めさせた』

語り継ぎたい「20 世紀の奇跡」インド独立への道

著者：プロビール・ビカシュ・シャーカー　　出版社：ハート出版

価格：本体 1,400 円+税　　ISBN 978-4-8024-0105-0

昨年暮れがせまった地元の書店で、平積みされていたタゴールの端正な写真が目に留まった。早速手に取って思わず立ち読みをした。

序章で、2007 年に当時の安倍総理がインド国会で、インド洋と太平洋の二つの海の交わりについて演説、それが 2016 年にアフリカ会議でやはり当時の安倍総理が提唱した「自由で開かれたインド太平洋」構想につながっていることに感銘を受けた。

著者のシャーカー氏は、バングラデシュから日本政府の国費留学生として 1984 年に来日、その後日本に在留しているアジア史研究家である。

日本と縁の深いベンガル人の立場で、近代のアジア史研究をする中で、大東亜戦争後に欧米からの独立を果たした国々、特にインド独立にスポットを当てたことがおもしろい。

スワーミー・ヴィヴェーカーナンダから始まり、タゴール、二人のボース、そして極東裁判の場で、欧米列強のアジア支配を解き放とうとした日本の立場を代弁してくれたパル判事に至るまで、なんとベンガル人ばかりである。いかにベンガル人と日本の繋がりが深いか、著者が実際に我妻和男博士との交流も紹介しながら説いた。

最後には、日印協会の評議員でもあるペマ・ギャルポ氏との対談も興味ある内容であった。

なお本書は、その後著者ご本人から寄贈いただいた。　　（日印協会事務局長　西本達生）

目次 ：

第一章　日本とベンガルの交流のはじまり　　第二章　タゴールと岡倉天心
第三章　ラス・ビハリ・ボースと日本　　第四章　受け継がれる「独立」への意志
第五章　チャンドラ・ボースとインド国民軍　　第六章「パル判決書」の歴史的意義
第七章　バングラデシュ小史　　特別対談　ペマ・ギャルポ　×　シャーカー

7. イベント紹介　　Japan-India Events

◆　2021 年 2 月 6 日（土）～5 月 16 日（日）「ミティラー美術館コレクション展」が開催

今の時期は豪雪でも有名な、新潟県十日町市にあるミティラー美術館は、インドのミティラー地方において母から娘へと受け継がれてきたミティラー画や、インド先住民ワルリー族が描くワルリー画などの優品を数多く所蔵する世界でも稀有な美術館です。

「たばこと塩の博物館」ではこれまでに 5 回同館と共催で展示を開催してきました。2006 年以来約 15 年ぶりとなる本展では、新作を含む同館コレクションの作品を通して、インドの民俗アートの雄大な世界を紹介します。

開催時期：2021 年 2 月 6 日（土）～5 月 16 日（日）

会場：たばこと塩の博物館　2 階特別展示室

東京都墨田区横川 1-16-3　　TEL 03-3622-8801（代表）

開館時間：午前 11 時～午後 5 時（入館締切は午後 4 時 30 分）

※開館時間を変更する場合があります。

休館日：毎週月曜日（ただし、5/3 は開館）、5 月 6 日（木）

入館料：一般・大学生 100 円　小・中・高校生 50 円

満 65 歳以上の方 50 円　※年齢がわかるものをお持ちください。

※なるべく少人数でのご来場をお願いします。

主催：たばこと塩の博物館

8. 掲示板
Notice

＜ 次回の『月刊インド』の発送日 ＞

次回２月３月合併号の発送は、2021 年２月 26 日(金)を予定しております。

＜ 編集後記 ＞新年を迎えたばかりのところで、東京都ほか少なからぬ府県に緊急事態が宣言されました。インドでの感染者は世界第二の規模となり、日印間の往来も最小限のものとなっています。したがって、協会もテレワークを基本とし、適宜出勤するとの態勢を余儀なくされていますが、ご理解を賜りたいと思います。

本号では、在京インド大使館のシッダールト・シン博士・ヴィヴェーカーナンダ文化センター長から特別寄稿をいただきました。文化、宗教に詳しい所長らしく、ヒンズー教の神々と仏教の仏たちとの関係につき詳しく解説いただきました。

そこで表紙には、ヒンズー教の神々の中でも強力なインドラ神（雷の神）とこの神が仏教に取り入れられて化身となった帝釈天の写真を選びました。写真の帝釈天は京都の東寺講堂に鎮座する 21 体の中で最も有名なものです。そのイケメンぶりが人気を博しています。全体を立体曼陀羅と称し、須弥山に鎮座する大日如来を中心とした真言密教世界を表したものです。如来５尊、菩薩５尊、明王５尊、天部６尊の 21 尊が大きな台座に鎮座しますが、ほぼすべてが国宝で、帝釈天は梵天（ブラフマ神）、四天王とともに仏たちを守っています。

曼陀羅は通常は絵画ですが、仏像彫刻で表したのは極めて珍しく、他にはないでしょう。

2014 年、訪日したモディ首相を安倍総理が自ら案内したのが、東寺でした。立体曼陀羅を通してヒンズー教と仏教は兄弟宗教であることがよくわかるからでした。

次回京都を訪れる際は、東寺の講堂と金堂（薬師三尊）、加えて、インドからの神像 30 尊（すべて国宝）が 1,001 体の千手観音を守る三十三間堂をお忘れなく。　　（理事長、平林博記）

入会随時受付中

日印協会は、1903 年、長岡護美、大隈重信、澁澤榮一の３名が中心となって創設されました。以来、日印の相互理解の促進を目的として、両国の友好親善に関する事業を行ってきました。

現在の協会の活動は、当協会の活動に賛同下さる会員の皆様からの会費によって支えられております。今後もより良い活動を続けるために、当協会の活動にご賛同いただける法人･個人のご入会を歓迎致します。

インドに関心をお持ちのお知り合いの方がいらっしゃいましたら、是非日印協会をアピールして下さい。ご希望により、当協会の活動に関する諸資料をお送りいたします。日印協会の活動に賛同して頂ける多くの法人会員･個人会員のご入会をお待ちしております。

☆年会費:	個人	１口(8,000 円)から	☆入会金	個人 2,000 円
	学生	１口(4,000 円)から		学生 1,000 円
	一般法人会員	１口(100,000 円)から		法人 5,000 円
	特別法人会員	１口(150,000 円)から		(一般法人、特別法人会員共に)

月刊インド 2021年1月号（2021年1月22日発行）　　発行人 平林 博　　編集人 西本達生
発行所　公益財団法人 日印協会
〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-1-14 スズコービル2階
Tel: 03-5640-7604　　Fax: 03-5640-1576　　E-mail: partner@japan-india.com
ホームページ: https://www.japan-india.com/